

# 令和元年中の姫路市の人口の動き

姫路市総務局情報政策室

## 1. はじめに

本書は、令和元年中の姫路市の人口の動きをまとめたもので、人口動態は、住民基本台帳法に基づく出生・死亡・転入・転出の届出を集計したものである。本文において出てくる人口増減数は〔自然増減数+社会増減数〕、自然増減数は〔出生数-死亡数〕、社会増減数は〔転入者数-転出者数+その他〕、転入超過数は〔転入者数-転出者数〕、人口動態率等の比率(%)は〔人口千人あたりの比率〕を意味する。平成18年3月27日に合併した4町(家島町、夢前町、香寺町、安富町)については、平成18年3月の数値より含まれている。

## 2. 人口動態

人口は7年連続で減少したものの、社会増減は2年連続でプラスとなった。

### (1) 概況

令和元年中の人口動態をみると、人口増減数は△1,119人で、前年に引き続き人口減少となった。人口増減を、自然増減と社会増減に分けてみると、自然増減数は△1,443人、社会増減数は324人となった。令和元年中の人口減少は、自然増減に起因する。自然増減数を前年と比べると、△1,496人から53人増加したものの、△1,443人となり、9年連続のマイナスとなった。一方、社会増減数については、前年の109人から215人増加し、324人となり2年連続のプラスとなった。

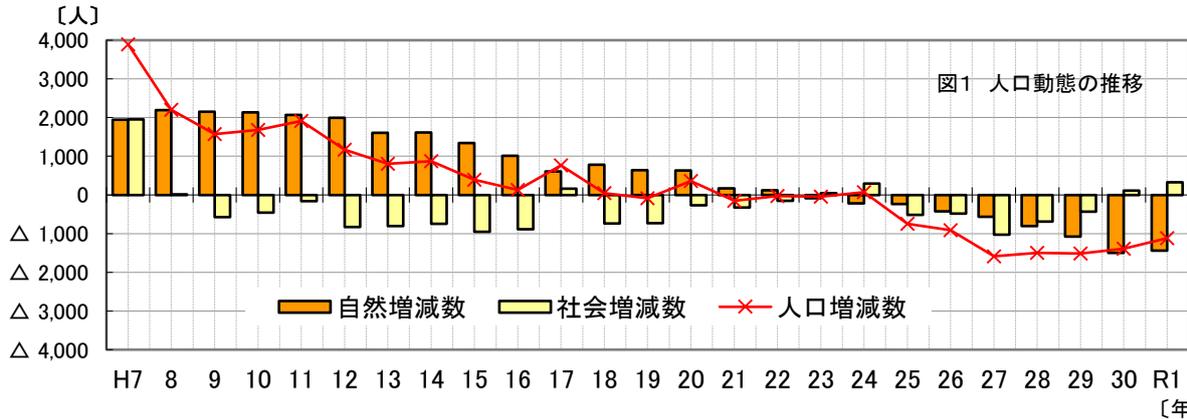


表1 人口動態の推移

(単位:人)

区分	人口増減	自然動態			社会動態			
		自然増減	出生	死亡	社会増減	転入	転出	その他
H7	3,896	1,942	5,352	3,410	1,954	18,881	17,192	265
8	2,200	2,189	5,566	3,377	11	16,943	17,132	200
9	1,575	2,151	5,635	3,484	△ 576	16,460	17,197	161
10	1,678	2,138	5,814	3,676	△ 460	16,598	16,993	△ 65
11	1,911	2,070	5,575	3,505	△ 159	16,286	16,630	185
12	1,168	1,996	5,663	3,667	△ 828	15,950	16,903	125
13	805	1,607	5,350	3,743	△ 802	16,081	17,066	183
14	870	1,616	5,280	3,664	△ 746	15,852	16,636	38
15	396	1,345	5,069	3,724	△ 949	15,810	16,859	100
16	126	1,013	4,994	3,981	△ 887	15,410	16,426	129
17	764	606	4,646	4,040	158	15,238	15,206	126
18	47	782	5,220	4,438	△ 735	15,232	16,035	68
19	△ 85	642	5,255	4,613	△ 727	14,654	15,650	269
20	363	631	5,091	4,460	△ 268	14,278	14,895	349
21	△ 152	171	5,055	4,884	△ 323	13,879	14,528	326
22	△ 29	119	4,999	4,880	△ 148	13,608	13,998	242
23	△ 42	△ 85	5,019	5,104	43	14,042	14,154	155
24	75	△ 217	5,023	5,240	292	13,673	13,464	83
25	△ 750	△ 238	4,865	5,103	△ 512	12,945	13,750	293
26	△ 908	△ 423	4,724	5,147	△ 485	12,916	14,037	636
27	△ 1,586	△ 562	4,708	5,270	△ 1,024	13,806	14,814	△ 16
28	△ 1,497	△ 808	4,477	5,285	△ 689	13,008	14,071	374
29	△ 1,512	△ 1,076	4,343	5,419	△ 436	14,175	14,532	△ 79
30	△ 1,387	△ 1,496	4,192	5,688	109	14,449	14,236	△ 104
R1	△ 1,119	△ 1,443	4,087	5,530	324	15,250	14,845	△ 81

注) 外国人を含む。

(2) 男女別人口動態の推移

自然減数が男女とも横ばいの一方で、社会増減数は男性がプラスに、女性はマイナスとなった。

男女別の人口動態をみると、令和元年中の人口増減数は、男性が△231人、女性が△888人で、前年の男性△635人、女性△752人から男性が404人増加、女性が136人減少した。また、自然増減、社会増減数別にみると、自然増減数は、男性が△740人、女性が△703人で、前年の男性△769人、女性△727人から男性が29人、女性が24人それぞれ増加した。また、社会増減数は、男性が509人、女性が△185人で、前年の男性134人、女性△25人から男性が375人増加、女性が160人減少となった。

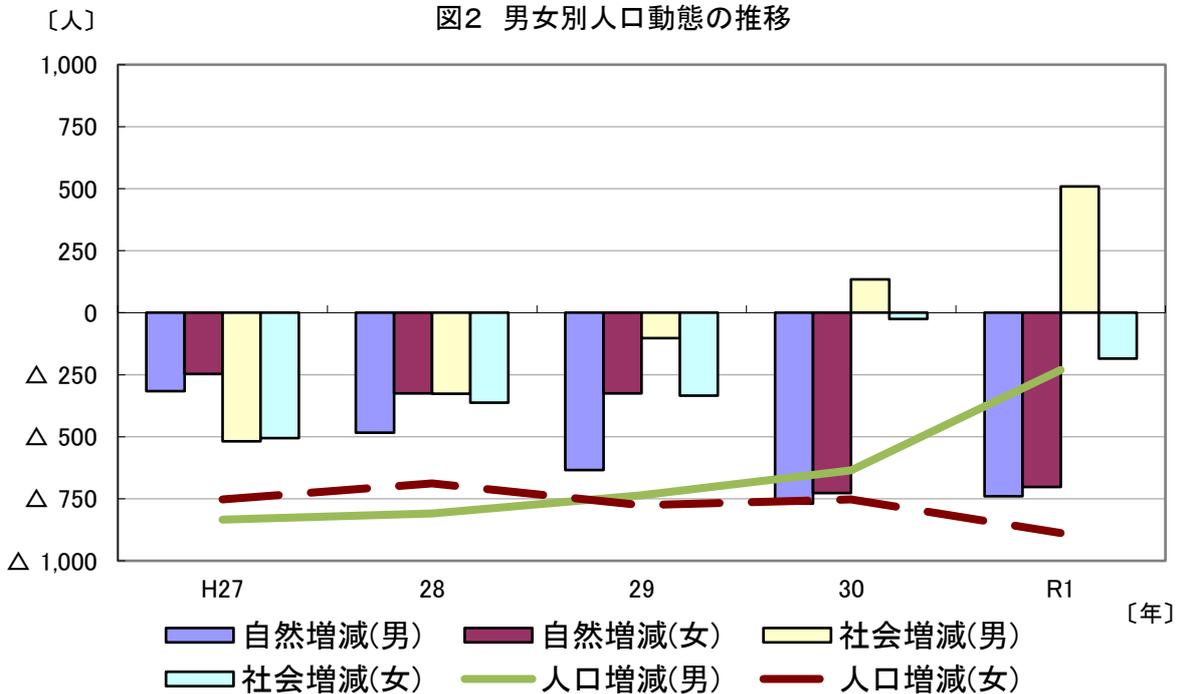


表2 男女別人口動態の推移

(単位：人)

区 分	人 口 増 減	自 然 動 態			社 会 動 態				
		自然増減	出 生	死 亡	社会増減	転 入	転 出	その他	
総 数	H27	△ 1,586	△ 562	4,708	5,270	△ 1,024	13,806	14,814	△ 16
	28	△ 1,497	△ 808	4,477	5,285	△ 689	13,008	14,071	374
	29	△ 1,512	△ 1,076	4,343	5,419	△ 436	14,175	14,532	△ 79
	30	△ 1,387	△ 1,496	4,192	5,688	109	14,449	14,236	△ 104
	R1	△ 1,119	△ 1,443	4,087	5,530	324	15,250	14,845	△ 81
男	H27	△ 834	△ 316	2,412	2,728	△ 518	7,588	8,119	13
	28	△ 809	△ 483	2,315	2,798	△ 326	7,046	7,528	156
	29	△ 736	△ 634	2,211	2,845	△ 102	7,637	7,723	△ 16
	30	△ 635	△ 769	2,134	2,903	134	7,877	7,704	△ 39
	R1	△ 231	△ 740	2,093	2,833	509	8,449	7,898	△ 42
女	H27	△ 752	△ 246	2,296	2,542	△ 506	6,218	6,695	△ 29
	28	△ 688	△ 325	2,162	2,487	△ 363	5,962	6,543	218
	29	△ 776	△ 442	2,132	2,574	△ 334	6,538	6,809	△ 63
	30	△ 752	△ 727	2,058	2,785	△ 25	6,572	6,532	△ 65
	R1	△ 888	△ 703	1,994	2,697	△ 185	6,801	6,947	△ 39

注) 外国人を含む。

(3) 月別人口動態の推移

人口増減数は3月に最も減少し、4月に最も増加した。

令和元年中の月別の人口動態をみると、人口増減数は、4月、7月のみで増加となり、逆に減少となったのは、1月から3月、5月、6月、8月から12月で、減少数が最大となったのは3月の△726人であった。また、自然動態、社会動態別にみると、自然増減数は昨年引き続き、全ての月で減少となった。一方、社会増減数は、1月、2月、4月から11月で増加となり、逆に減少となったのは、3月、12月のみであった。

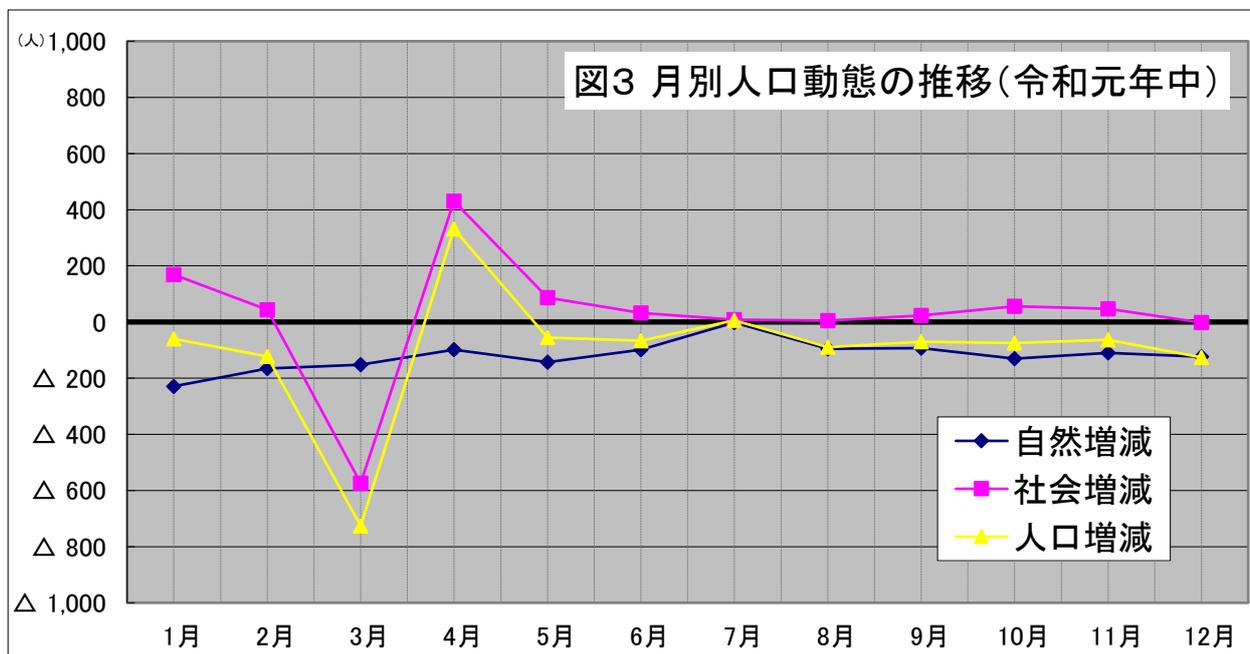


表3 月別人口動態の推移(令和元年中)

(単位:人)

区 分	人口増減	自 然 動 態			社 会 動 態			
		自然増減	出 生	死 亡	社会増減	転 入	転 出	その他
令和元年総数	△ 1,119	△ 1,443	4,087	5,530	324	15,250	14,845	△ 81
1月	△ 60	△ 229	351	580	169	1,067	898	-
2月	△ 123	△ 166	337	503	43	1,005	953	△ 9
3月	△ 726	△ 152	297	449	△ 574	2,568	3,166	24
4月	331	△ 99	319	418	430	2,232	1,800	△ 2
5月	△ 56	△ 143	345	488	87	1,156	1,062	△ 7
6月	△ 67	△ 99	323	422	32	1,024	971	△ 21
7月	6	△ 2	397	399	8	1,189	1,189	8
8月	△ 90	△ 95	355	450	5	1,095	1,076	△ 14
9月	△ 70	△ 93	331	424	23	1,073	1,042	△ 8
10月	△ 75	△ 131	349	480	56	1,023	950	△ 17
11月	△ 63	△ 110	358	468	47	926	852	△ 27
12月	△ 126	△ 124	325	449	△ 2	892	886	△ 8

注) 外国人を含む。

3. 自然動態  
(1) 概況

自然増減数は前年から増加したものの、9年連続でマイナスとなった。

令和元年中の自然動態をみると、自然増減数は△1,443人で、前年の△1,496人から53人増加した。このため、自然増減率は△2.72%となり、前年の△2.82%と比べ、0.10ポイント上昇し、自然増減数、自然増減率ともに前年と比べて小幅な増加となった。また、出生、死亡別にみると、令和元年中の出生数は4,087人で、前年の4,192人から105人減少し、7年連続で前年を下回った。出生率は7.71%となり、前年の7.89%から0.18ポイント低下した。また、死亡数は5,530人で9年連続で5,000人超となり、前年の5,688人から158人減少した。このため、死亡率は10.43%となり、前年の10.71%と比べ、0.28ポイント低下した。

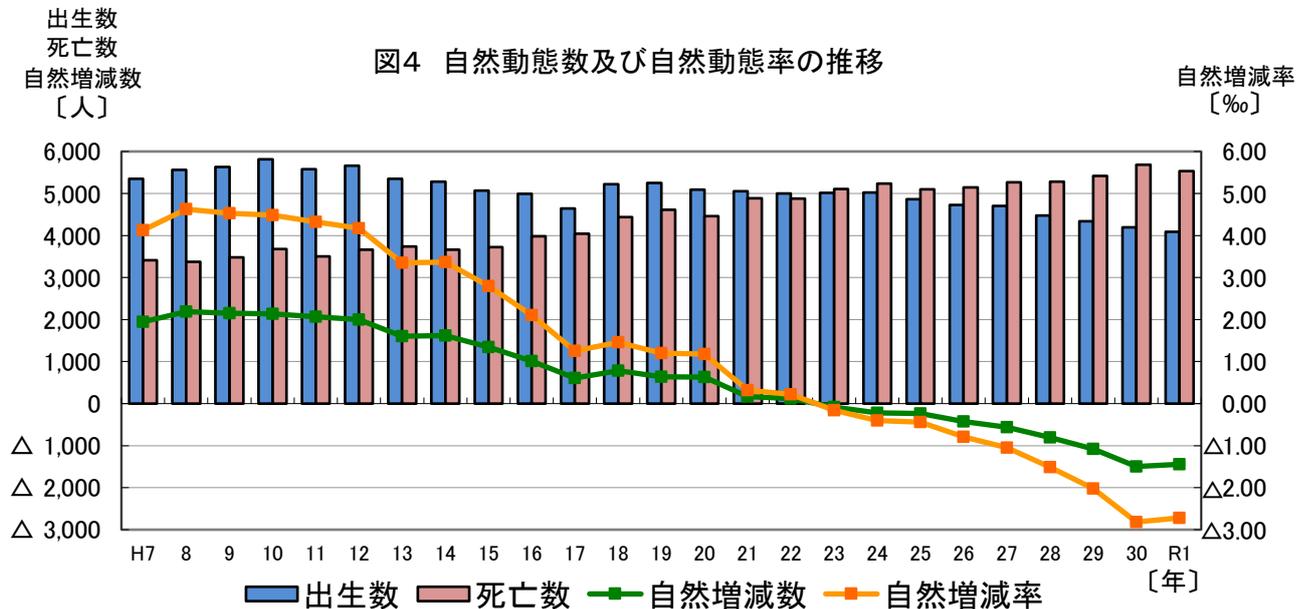


表4 自然動態数及び自然動態率の推移

(単位：人，%)

区分	自然増減数	出生数	死亡数	自然増減率	出生率	死亡率	人口 (10月1日現在)
* H7	1,942	5,352	3,410	4.12	11.36	7.24	470,986
8	2,189	5,566	3,377	4.63	11.76	7.14	473,177
9	2,151	5,635	3,484	4.53	11.86	7.33	475,167
10	2,138	5,814	3,676	4.48	12.19	7.71	476,800
11	2,070	5,575	3,505	4.33	11.65	7.33	478,433
* 12	1,996	5,663	3,667	4.17	11.84	7.67	478,309
13	1,607	5,350	3,743	3.35	11.16	7.81	479,431
14	1,616	5,280	3,664	3.37	11.00	7.63	480,147
15	1,345	5,069	3,724	2.80	10.55	7.75	480,684
16	1,013	4,994	3,981	2.11	10.38	8.28	481,011
* 17	606	4,646	4,040	1.26	9.63	8.38	482,304
18	782	5,220	4,438	1.46	9.74	8.28	536,067
19	642	5,255	4,613	1.20	9.80	8.60	536,256
20	631	5,091	4,460	1.18	9.49	8.31	536,502
21	171	5,055	4,884	0.32	9.42	9.10	536,447
* 22	119	4,999	4,880	0.22	9.32	9.10	536,270
23	△ 85	5,019	5,104	△ 0.16	9.36	9.52	536,370
24	△ 217	5,023	5,240	△ 0.40	9.37	9.77	536,300
25	△ 238	4,865	5,103	△ 0.44	9.08	9.52	535,783
26	△ 423	4,724	5,147	△ 0.79	8.83	9.62	534,794
* 27	△ 562	4,708	5,270	△ 1.05	8.79	9.84	535,664
28	△ 808	4,477	5,285	△ 1.51	8.38	9.89	534,452
29	△ 1,076	4,343	5,419	△ 2.02	8.15	10.17	532,994
30	△ 1,496	4,192	5,688	△ 2.82	7.89	10.71	531,298
R1	△ 1,443	4,087	5,530	△ 2.72	7.71	10.43	530,363

注) ※の人口は国勢調査結果における人口、それ以外は推計人口、外国人を含む。

## (2) 出生率及び死亡率の推移

出生率は7年連続低下、死亡率も6年ぶりに低下した。

出生率の推移をみると、姫路市の出生率は7.71‰と前年の7.89‰から0.18ポイント低下した。全国の出生率と比べると、過去25年間、常に全国の数値を上回っており、平成10年には最大の2.68ポイント上回ったが、近年では、姫路市の出生率の低下傾向が大きくなり、令和元年は、その差が0.85ポイントと全国の出生率に近づいてきている。一方、死亡率をみると、姫路市では、令和元年は10.43‰となり、前年と比べ、0.28ポイント低下した。過去25年間では多少の増減がありつつも増加傾向をたどっている。また、全国の死亡率と比べると、姫路市では全国とほぼ同様の推移をたどっている。

図5 出生率及び死亡率の推移(姫路市、全国)

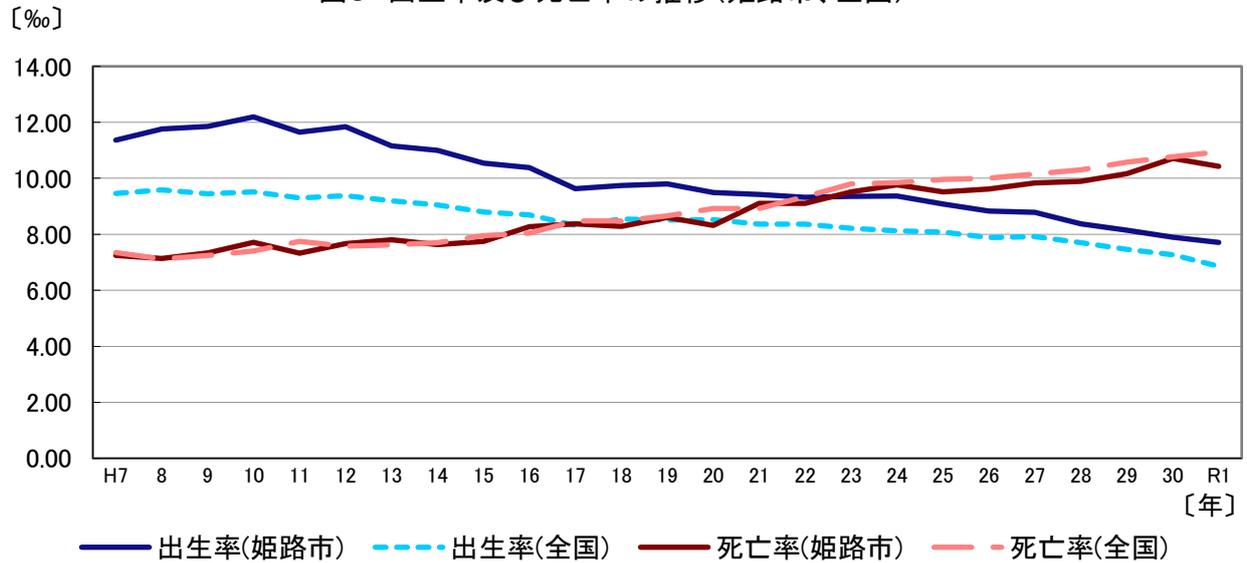


表5 出生率及び死亡率の推移(姫路市、全国)

(単位：‰)

区分	出生率		死亡率	
	姫路市	全国	姫路市	全国
H7	11.36	9.45	7.24	7.34
8	11.76	9.59	7.14	7.12
9	11.86	9.45	7.33	7.24
10	12.19	9.51	7.71	7.40
11	11.65	9.30	7.33	7.75
12	11.84	9.38	7.67	7.58
13	11.16	9.19	7.81	7.62
14	11.00	9.05	7.63	7.71
15	10.55	8.80	7.75	7.95
16	10.38	8.69	8.28	8.05
17	9.63	8.32	8.38	8.48
18	9.74	8.54	8.28	8.48
19	9.80	8.51	8.60	8.66
20	9.49	8.52	8.31	8.92
21	9.42	8.36	9.10	8.92
22	9.32	8.37	9.10	9.35
23	9.36	8.22	9.52	9.80
24	9.37	8.13	9.77	9.85
25	9.08	8.08	9.52	9.96
26	8.83	7.89	9.62	10.01
27	8.79	7.91	9.84	10.15
28	8.38	7.70	9.89	10.31
29	8.15	7.47	10.17	10.58
30	7.89	7.26	10.71	10.78
R1	7.71	6.86	10.43	10.95

注) 姫路市の数値には外国人を含む。

令和元年の全国の数値は人口動態調査(概数)より算出。

4. 社会動態  
(1) 概況

転入超過数・超過率ともに3年連続で増加した。

令和元年中の社会動態をみると、転入超過数は405人で、前年の213人から192人増加した。このため、転入超過率は0.76%となり、前年の0.40%と比べ、0.36ポイント上昇し、2年連続でプラスとなった。また、転入、転出別にみると、令和元年中の転入者数は15,250人で、前年の14,449人から801人増加した。このため、転入率は28.75%となり、前年の27.20%と比べ、1.55ポイント上昇した。また、転出者数は14,845人で、前年の14,236人と比べ、609人増加した。このため、転出率は27.99%で、前年の26.79%と比べ、1.20ポイント上昇した。

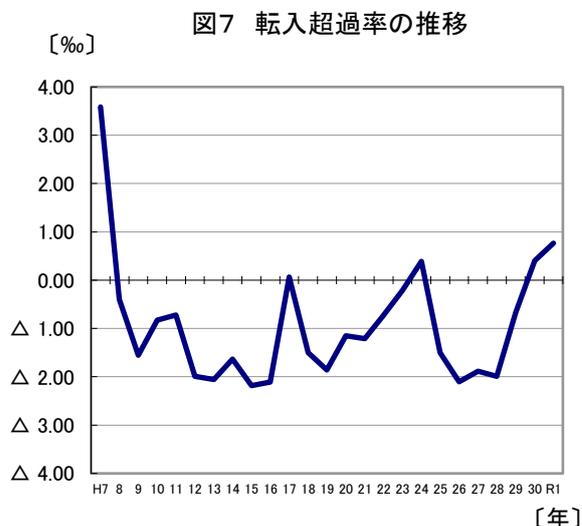
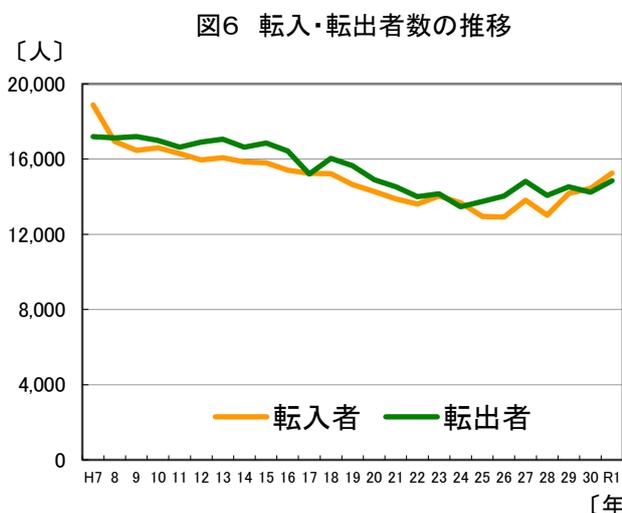


表6 社会動態数及び社会動態率の推移

(単位：人，%)

区分	転入超過数	転入者数	転出者数	転入超過率	転入率	転出率	人口 (10月1日現在)
※ H7	1,689	18,881	17,192	3.59	40.09	36.50	470,986
8	△ 189	16,943	17,132	△0.40	35.81	36.21	473,177
9	△ 737	16,460	17,197	△1.55	34.64	36.19	475,167
10	△ 395	16,598	16,993	△0.83	34.81	35.64	476,800
11	△ 344	16,286	16,630	△0.72	34.04	34.76	478,433
※ 12	△ 953	15,950	16,903	△1.99	33.35	35.34	478,309
13	△ 985	16,081	17,066	△2.05	33.54	35.60	479,431
14	△ 784	15,852	16,636	△1.63	33.01	34.65	480,147
15	△ 1,049	15,810	16,859	△2.18	32.89	35.07	480,684
16	△ 1,016	15,410	16,426	△2.11	32.04	34.15	481,011
※ 17	32	15,238	15,206	0.07	31.59	31.53	482,304
18	△ 803	15,232	16,035	△1.50	28.41	29.91	536,067
19	△ 996	14,654	15,650	△1.86	27.33	29.18	536,256
20	△ 617	14,278	14,895	△1.15	26.61	27.76	536,502
21	△ 649	13,879	14,528	△1.21	25.87	27.08	536,447
※ 22	△ 390	13,608	13,998	△0.73	25.38	26.10	536,270
23	△ 112	14,042	14,154	△0.21	26.18	26.39	536,370
24	209	13,673	13,464	0.39	25.50	25.11	536,300
25	△ 805	12,945	13,750	△1.50	24.16	25.66	535,783
26	△ 1,121	12,916	14,037	△2.10	24.15	26.25	534,794
※ 27	△ 1,008	13,806	14,814	△1.88	25.77	27.65	535,664
28	△ 1,063	13,008	14,071	△1.99	24.34	26.33	534,452
29	△ 357	14,175	14,532	△0.67	26.60	27.26	532,994
30	213	14,449	14,236	0.40	27.20	26.79	531,298
R1	405	15,250	14,845	0.76	28.75	27.99	530,363

注) ※の人口は国勢調査結果における人口、それ以外は推計人口。  
外国人を含む。

(2) 県内地域別転入・転出者数の推移

県内の転入超過数はマイナスとなり、昨年と比べて、転入者数は減少、転出者数は増加した。

県内の社会動態をみると、令和元年中の転入超過数は△48人で、前年の220人から、268人減少した。地域別にみると、西播磨地域の402人、その他の地域の105人など4つの地域で転入超過数がプラスであったのに対し、神戸地域の△291人、東播磨地域の△230人など4つ地域ではマイナスであった。また、転入、転出者数別にみると、令和元年中の転入者数は5,942人で、前年の5,988人と比べ、46人減少した。地域別にみると、西播磨地域の1,627人が最も多く、次いで東播磨地域の1,529人、神戸地域の993人となった。また、転出者数は5,990人で、前年の5,768人と比べ、222人増加した。地域別にみると、東播磨地域の1,759人が最も多く、次いで神戸地域の1,284人、西播磨地域の1,225人となった。

〔人〕 図8 県内地域別転入・転出者数

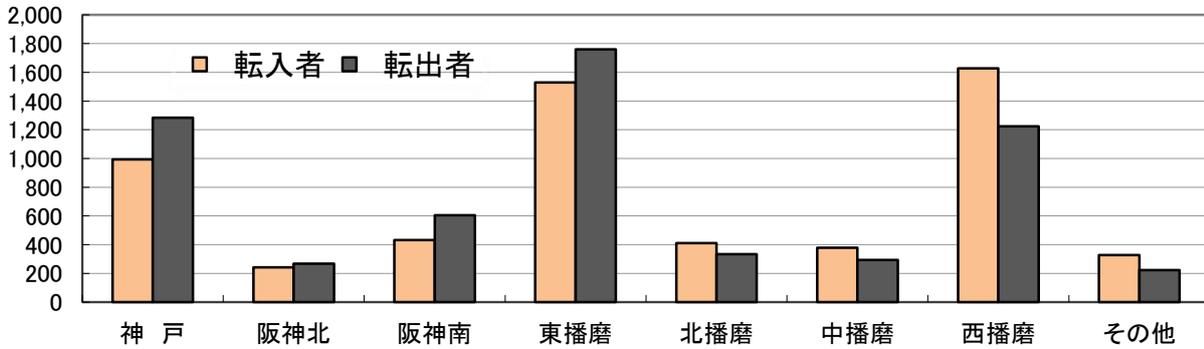


表7 県内地域別転入・転出者数の推移

区分	総数	神戸	阪神北	阪神南	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	その他
<b>転入超過数</b>									
H27	△ 290	△ 441	△ 45	△ 143	△ 57	29	93	199	75
28	△ 53	△ 317	△ 53	△ 65	△ 132	△ 49	108	379	76
29	175	△ 266	△ 115	△ 100	21	35	93	446	61
30	220	△ 299	△ 37	△ 151	△ 44	77	165	372	137
R1	△ 48	△ 291	△ 26	△ 172	△ 230	78	86	402	105
<b>転入者数</b>									
H27	5,971	947	242	401	1,583	366	394	1,703	335
28	5,774	971	229	470	1,517	293	381	1,636	277
29	6,058	1,010	179	441	1,601	357	426	1,766	278
30	5,988	978	225	425	1,549	380	407	1,689	335
R1	5,942	993	242	433	1,529	411	379	1,627	328
<b>転出者数</b>									
H27	6,261	1,388	287	544	1,640	337	301	1,504	260
28	5,827	1,288	282	535	1,649	342	273	1,257	201
29	5,883	1,276	294	541	1,580	322	333	1,320	217
30	5,768	1,277	262	576	1,593	303	242	1,317	198
R1	5,990	1,284	268	605	1,759	333	293	1,225	223

注) 外国人を含まない。

合併があった市町については、合併期日以前は旧市町地域で、合併期日以後は新市町地域で計上している。

〔地域区分〕

神戸地域：神戸市

阪神北地域：伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町

阪神南地域：尼崎市、西宮市、芦屋市

東播磨地域：明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町

北播磨地域：西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町

中播磨地域：市川町、福崎町、神河町

西播磨地域：相生市、赤穂市、宍粟市、たつの市、太子町、上郡町、佐用町

その他の地域：豊岡市、丹波篠山市、丹波市、洲本市、淡路市、南あわじ市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町

(3) 県外地域別転入・転出者数の推移

県外の転入超過数は昨年と比べて増加したものの、引き続きマイナスとなった。

県外の社会動態をみると、令和元年中の転入超過数は△331人で、前年の△736人と比べ、405人増加した。地域別にみると、中国・四国地方の335人をはじめ、九州・沖縄地方の207人、中部地方の86人など4つの地域で転入超過数がプラスとなった一方で、関東地方の△549人、近畿地方の△416人など3つの地域で転入超過数がマイナスとなった。また、転入、転出者数別にみると、令和元年中の転入者数は7,289人で、前年の6,766人と比べ、523人増加した。地域別にみると、近畿地方の2,209人が最も多く、次いで中国・四国地方の1,401人、関東地方の1,229人となった。また、転出者数は7,620人で、前年の7,502人と比べ、118人増加した。地域別にみると、近畿地方の2,625人が最も多く、次いで関東地方の1,778人、中国・四国地方の1,066人となった。

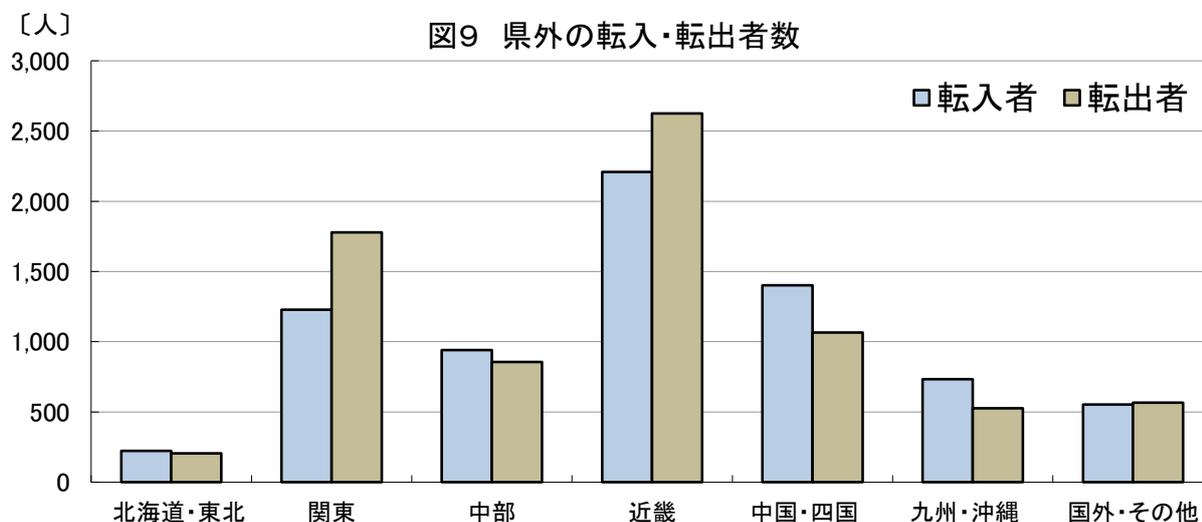


表8 県外地域別転入・転出者数の推移

区分	総数	北海道・東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄	国外・その他
<b>転入超過数</b>								
H27	△ 1,037	24	△ 451	△ 253	△ 431	68	63	△ 57
28	△ 1,031	△ 10	△ 641	△ 89	△ 476	132	124	△ 71
29	△ 1,121	△ 19	△ 601	△ 63	△ 485	41	30	△ 24
30	△ 736	16	△ 609	14	△ 522	296	114	△ 45
R1	△ 331	18	△ 549	86	△ 416	335	207	△ 12
<b>転入者数</b>								
H27	6,713	221	1,157	744	2,115	1,365	591	520
28	6,432	193	1,128	744	1,964	1,283	632	488
29	6,511	181	1,154	735	2,089	1,242	605	505
30	6,766	207	1,157	781	2,046	1,387	647	541
R1	7,289	222	1,229	941	2,209	1,401	734	553
<b>転出者数</b>								
H27	7,750	197	1,608	997	2,546	1,297	528	577
28	7,463	203	1,769	833	2,440	1,151	508	559
29	7,632	200	1,755	798	2,574	1,201	575	529
30	7,502	191	1,766	767	2,568	1,091	533	586
R1	7,620	204	1,778	855	2,625	1,066	527	565

注) 外国人を含まない。

[地方区分]

北海道・東北地方：北海道、青森県、岩手県、秋田県、山形県、宮城県、福島県

関東地方：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中部地方：新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿地方：滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、和歌山県

中国・四国地方：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州・沖縄地方：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県